

CLIPPEDIMAGE= JP356047335A
PAT-NO: JP356047335A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 56047335 A
TITLE: SIDE GUARD FOR VEHICLE

PUBN-DATE: April 30, 1981

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
TAMAKI, HISASHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SHIN MEIWA IND CO LTD	N/A

APPL-NO: JP54125111

APPL-DATE: September 27, 1979

INT-CL_(IPC): B60R021/14

US-CL-CURRENT: 280/748

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a side guard, mounted at a side of a truck or other vehicles, which facilitates attaching and detaching of the side guard proper, and enables attaching and detaching of only a portion necessary to repair and replace a battery, a fuel tank and other accessories.

CONSTITUTION: A side guard proper C is mounted at, for example, L-shaped longitudinal levers B secured on a car bed frame A, and consists of a number of longitudinal frames 1 equivalent to that of the longitudinal lever B and transverse frames 2 fastened on the longitudinal frame 1. The longitudinal frame 1 is formed in, for example, a U-shaped cross section so that it can mate a vertical portion of the main lever of the longitudinal lever B, and is secured on the longitudinal lever B with bolts inserted into bolt insertion holes 3 and tightened by means of nuts 6. In a drawing, two transverse frames 2 secured on the longitudinal lever B forms an upper stage, the single

Best Available Copy

transverse frame fastened on the longitudinal frame 1 forms a lower stage, and said two stages are combined together to form the side guard proper.

COPYRIGHT: (C)1981,JPO&Japio

Best Available Copy

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—47335

⑤ Int. Cl.³
B 60 R 21/14

識別記号

庁内整理番号
6839—3D

⑬ 公開 昭和56年(1981)4月30日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 車輛用サイドガード

番43号新明和工業株式会社川西
モーターサービス内

⑯ 特 願 昭54—125111

⑰ 出 願 人 新明和工業株式会社

⑱ 出 願 昭54(1979)9月27日

西宮市小曾根町1丁目5番25号

⑲ 発 明 者 玉木久

⑳ 代 理 人 弁理士 角田嘉宏

神戸市東灘区本山南町9丁目8

明 細 書

1 発明の名称

車輛用サイドガード

2 特許請求の範囲

数本の縦杆(B)を車輛側面に固設し、この縦杆(B)に嵌着する縦杆(I)に少なくとも一本以上の横杆(II)が固着されたサイドガード本体(III)を、前記縦杆(B)に着脱自在にボルト(IV)止めしたことを特徴とする車輛用サイドガード。

3 発明の詳細な説明

本発明は車輛用サイドガードに関するものである。大型車輛、とくにトラック、ダンプカー等ではこれが右折或は左折するとき、人や自動車等を車台下に巻きこむおそれがあり、車台下にこれらがもぐりこむ状態をなくするために前後車輛間にわたって車輛側面にサイドガードを取り付けることが試みられている。

ところが従来のサイドガードはサイドガード本体の着脱を容易にしたものがないため、レンチに取り付けられている付属品、例えばパツテ

リー、燃料タンク、空気系統等の部品の取り替えや点検に手数と時間を要していた。

本発明はこの欠点を解消するためサイドガード本体の着脱を容易にするとともに前記付属品の修理、取り替え等の作業に必要な最小限のサイドガードを着脱しうる様にしたものである。今本発明の構成をその一実施例を示す添付図面に基づいて説明すると、第1図においてIVは車台フレームであつて、これに縦杆(B)が固設されている。図面は車台フレームから突出された略し字状の主杆からなる縦杆(B)を描いているが、縦杆の形状はこれに限られることなく、車台フレームに対して前後車輛間において垂下する主杆を有するものであればすべて適用しうる。かくて、縦杆(B)は車輛側面に固設されていることになる。そして各縦杆(B)にサイドガード本体(III)が取り付けられるのであるが、サイドガード本体(III)は縦杆(B)の本数に相当する本数の縦杆(I)とこの縦杆(I)に固着された横杆(II)とからなり、縦杆(II)は縦杆(B)の主杆の垂直部分に嵌着しうる

様な形状に 成されている。従つて例えば図示のごとく縦杆を市販の入手容易な角パイプで構成するとき縦杆(1)は断面コの字状のものが好しく、丸パイプで構成するとき断面扁圆形のものが好しい。図面は縦杆(1)に横杆(2)が2本固着されたものを上段とし、縦杆(1)に横杆(2)が1本固着されたものを下段として、それらが組み合わされたサイドガード本体を示しているが、この組み合わせは適宜のものが採択しうるのであつて、少なくとも縦杆(1)に対して横杆(2)が1本以上固着されておればよい。それを数段組み合わせて縦杆(1)に嵌着させることによつて、レヤレに取り付けられている付属品の修理等のために必要最小限のサイドガード部分のみを取りはずすことができる。

次いで本発明における縦杆(1)への縦杆(1)の取り付け手段を述べると、第2図に示すごとく縦杆(1)にはボルト挿通孔(3)が穿設されており、これにボルト(4)を貫通させ、反対側からスプリングワッシャー(5)をボルトに通してナット(6)で締

(3)

めつけるのであるが、ボルト挿通孔(3)はボルト(4)が縦杆(1)の後で貫通する様に配されている。そこで、コの字状縦杆(1)の内部空間の長さを有するパイプ(7)を介してボルト締めすると縦杆(1)は長期使用によつても変形するおそれけ少なくなる。

しかしボルト止めはこの実施例に限られることだけでなく、縦杆(1)にもボルト挿通孔を穿設し、これらにボルト(4)を貫通させてボルト締めしてもよい。かかる場合、縦杆(1)の下部に設けられた保止部(8)は縦杆と縦杆に配されたボルト挿通孔の位置あわせにとくに顕著な効果を実する。すなわち、保止部(8)に縦杆下端を嵌めるだけで予め定められたボルト挿通孔の位置を合わせることができるのである。しかし第2図の実施例に示すボルト止めにおいても保止部(8)は一人でサイドガード本体(1)の着脱作業を行わしめることができるという利点を有している。なお、図面は舌片状の保止部(8)を示しているが縦杆(1)の下端が嵌せられるものであればその構成に限定は

(4)

なく、また場合によつては縦杆(1)の中央部に設けてあつてもよい。

かくのごとく本発明によればサイドガード本体の着脱を一人の作業員で容易に行えらるとともにレヤレに取り付けられた付属品の修理等の作業につき必要最小限のサイドガードを取りはずしうる製造容易で安価なサイドガードが提供しうるものである。

4 図面の簡単な説明

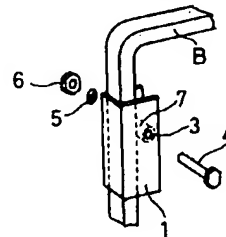
第1図は本発明の実施例を示す斜視図、第2図は縦杆への縦杆の取り付け手段の実施を示す斜視図である。

(A)・・・車台フレーム、(B)・・・縦杆、(C)・・・サイドガード本体、(1)・・・縦杆、(2)・・・横杆、(3)・・・ボルト挿通孔、(4)・・・ボルト、(5)・・・スプリングワッシャー、(6)・・・ナット、(7)・・・パイプ、(8)・・・保止部。

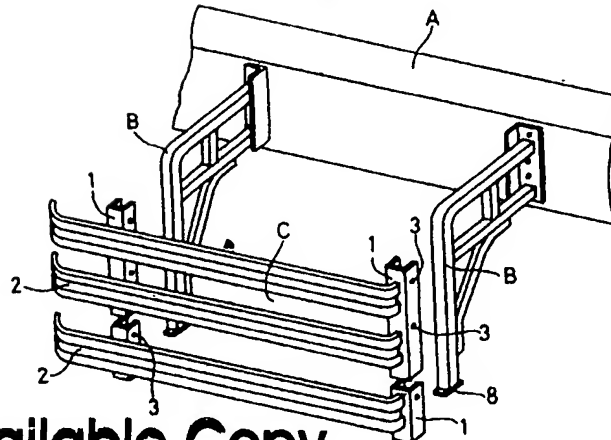
特許出願人代理人氏名

弁理士 角 田 高 安

第2図



第1図



Best Available Copy

(1)

(別紙)

手続補正書(自発)

昭和55年12月29日

特許庁長官 川原 能 雄 殿

1. 事件の表示 昭和54年特許願第125111号

2. 発明の名称 車輛用サイドガード

3. 補正をする者事件との関係 特許出願人

西宮市小曾根町1丁目5番25号

シンメイワコウギョウ

(235) 新明和工業株式会社

代表者 八木 良夫

4. 代理人 〒650

住 所 神戸市生田区東町123番地の1 貿易ビル9階

電話 神戸 8780321-8822 大代表

氏 名 弁 理 士 (6586) 角 田 嘉 宏

5. 補正指令の日付 昭和 年 月 日

6. 補正の対象 明細書中の特許請求の範囲並びに特許請求の範囲を説明の欄

7. 補正の内容 (1) 明細書中第1頁第4行目〜第2頁第1行目(特許請求の範囲)を別紙の通り補正し直す。
(2) 明細書中第5頁第2行と同第3行の間に次の文言を挿入する。
「更に、この実施例では係止手段としてがルト止めの例を示したがピン止め又はその他自明の固着手段でも適用しうる。」

2 特許請求の範囲

数本の縦杆(B)を車輛側面に固設し、この縦杆(B)に係着する縦杆(1)に少なくとも一本以上の横杆(2)が固着されたサイドガード本体(C)を、前記縦杆(B)に係着自在に係止したことを特徴とする車輛用サイドガード。

Best Available Copy